



校章の笹竜胆（ささりんどう）は、箕田源氏の旗印です

# ささりんどう

〔学校教育目標〕 ～感動し、共に喜びあえる児童の育成～

鴻巣市立箕田小学校 学校だより  
令和6年12月2日

児童数  
男子 122名  
女子 137名  
合計 259名



## 「ともだち」について考える ～子どもたちにとっての「ともだち」とは～

校長 清水 良江

いよいよ師走に入りました。一年の締めくくりの時期となります。12月は学期末を迎えるため、学校でもせわしいイメージがあります。2学期までの学習のまとめを行うとともに、気持ちよく年が越せるよう、身辺整理をしながら過ごしていきたいものです。今、学校では無言清掃が定着しつつあります。これまでの反省を踏まえ、昨年度から力を入れている項目です。奉仕の精神がある子どもたちは、そうじの時間になると、自分の掃除場所を一生懸命に取り組みます。その姿は、本当に素晴らしいと思います。HPでも時折紹介していきます。

さて、先日の校長講話では、「ともだち」について考えてほしいと思い、谷川俊太郎の「ともだち」の読み聞かせをしました。子どもたちにとって「ともだち」はなくてはならないものです。切磋琢磨しながら、喧嘩しながら、時にはライバルとして刺激をし合いながら、ともに育っていきます。この本は「ともだち」がどういう存在なのか、「ともだち」ってどういう人のことを言うのか、「ともだちなら」どうするのか、「ともだち」がいたらこんなこともできる…など、私たちにいろいろな角度からともだちについて考えさせてくれます。講話後、「ともだち」について子どもたちに考えを聞いてみました。以下その一部を紹介したいと思います。一人一人が改めて友達との付き合い方を考えるきっかけになれば…と思います。

- ・私がともだちとのつきあいかたについて大切にしたいことは約束を守り、傷ついてしまうことは言わないことです。私は今まで、傷ついてしまうようなことを言ってしまったことがあるので、直して友達を増やしていきたいです。
- ・友達との付き合い方について自分が大切にしたいことは言葉です。なぜかという、友達に言葉の暴力をしてしまったからです。その時はとても後悔があって、「なんで言っちゃったのだろう」とたくさん頭に残りました。これからは友達に対して言葉の暴力をしないで接し合い、そして友達が言葉の暴力を受けていたら相談に乗ってあげます。
- ・友達と付き合う上で大切なことは、悪口とかげ口、けんかといじめなど、してはいけないことを区別することだと思いました。陰口を言っていると友達が悲しむし、けんかは仲直りできるけど、いじめは仲直りじゃすまないからです。
- ・友達と付き合っていくうえで大事にしていきたいことは、言葉と行動です。友達だからと言って悪口を言うのはよくないし、悪口を言うてはいけないという理由でけんかもダメだからです。これからも言葉と行動には気を付けていきたいです。
- ・「ともだち」とはすばらしいなと思いました。なぜかという、本当の友達は悪口や陰口、いじめなどをしないでどんな子にもやさしく接しているからです。だから私は、友達と付き合う上でこれからも友達との関係性を大切にしていきたいです。
- ・友達と付き合っていく中で、大切にしたいことは「ほめる」ということだと思っています。自分も相手もほめ合えば嬉しい気持ちになるからです。けんかをしてしまう時もあるけれど、仲直りをしたり、お互いのいいところを褒め合ったりすることで、より友情が深まると思っています。これからは友達のいい所をたくさん見つけて、直接言い合いたいです。
- ・これから友達と付き合う上で私が大切だと思うことがあります。それは、「仲」です。喧嘩はしてもいいけど、裏切るような行動はしてはいけません。仲がよいとどんなこともチャレンジできるような気がします。もう一つは、「楽」です。楽しいのはよいこと。友達と仲がよく楽しくしていると、心も体もつかれが吹きとび、もっと仲が深まったりするからです。これからも友達を大事にします。

### PTA 活動の見直しについて ～子どものため、学校のためにできることを考える～

この一年間、執行部の方とともに箕田小 PTA の活動について見直しをしてきました。見直しの大きな理由は、保護者の働き方のスタイルが大きく変化していることや学区変更等で児童数が年々減少しているということです。これらのことを考えますと、これまで行ってきた従来通りの活動を継続していくことは今後困難になることが予想されます。PTA は家庭教育の充実を図るとともに、保護者や教職員、地域が連携して子どもたちの健全な成長を促すことを目的としています。また任意の団体でもあります。今後は、できるだけ多くの方に自主的に参加していただき、三者が連携して子どもたちの成長を支えていける活動に変えていくことが望ましいのではないかと考えます。ただ、そうするためにはまだいくつかの課題があり、それらを解決していかなければなりません。次年度は PTA 活動がかなりスリム化する方向でありますが、残された課題を解決するためにもう少し時間をいただくことになりそうです。その点をご理解いただき、今後も引き続き皆様からのご意見をいただけますと幸いです。